

以上諸説に對する批評

井 上 哲 次 郎

色々諸君の御高説を拜聴いたしました。大變有益に思ひます。併し私からは變つたことを申上げる必要もないやうであります。又變つた考もさうないのであります。唯拜聴した上で一つ私の感じたことがあります。それを一つちよつと申上げて終りに些細の點を一つ二つ申上げるに止めます。尙ほ又それに就て色々御高説が出ますれば幸ひであると思ひます。

私は諸君の御高説を拜聴して斯う感ずるのであります。唯加藤玄智博士の御話はいふに御座りなかつたので残念であります。其外の白鳥博士のは初から拜聴しました。略々諸君のは了解した考であります。大體「しらす」と「うしはく」に關し大變結構な研究であります。其研究を完成して居ると云ふのは無論ないとは私も思ふのであります。「うしはく」に就ては私は色々讀んで見て又大に井上毅氏の説を修正すべき點もありません。又諸君の御高説も將來之に就ての研究資料になるべきものであらうと思ひます。併ながら一つそれよりも動かぬ點があると思ひます。それは一は日本の歴代の天皇の政治を爲されることは決して「うしはく」とは言つて居ないことであります。天皇はスラヒコト「うしはき」給ふと云ふことは決し

て正史にはない、——何處にありますか、——歴代天皇は政治を爲される場合に何時でも「しらす」と申して天皇は「うしはき」給ふと云ふことはない。奈良朝時代に「うしはく」と云ふことが即ちオプソレイトになつて居つたにしても、日本紀などに或は宣命などに「うしはき」給ふと云ふことは一ヶ所も出て居ない。若し是があつたならば諸君が御出しになつたのでありませうが、御出しにならぬ。歴代の天皇より今上天皇陛下に至る迄何時でも「しろしめす」「しらす」である、「うしはき」給ふと云ふことはない、是が第一大に注意しなければならぬ點である。今の河野君の出されたのは既に本居翁の古事記傳の中に擧げて居ります、あの外に加藤玄智博士などは出されたやうであります。幾らも出て來ますが、外の人の場合には使つてありますが、正系統の天皇の政治を爲さる上には一ヶ所も使つてない。諸君が御出しにならぬと云ふことが大變な大事な點であります。さうして「しらす」と云ふ言葉の意味と「うしはく」とは元來は同じでありますも其意味が段々改まりまして「うしはく」を其他の意味に使つて來るのは時代に依つて違つて來る。即ちプラグマチズムと云ふ今日の實用主義などの眞理と云ふものは時代に依つて出來て行くもので初めから形の如く出來て居らない。眞理は段々出來て行く。やつて行くに従つて出て行くと云ふのがプラグマチズムの主張であります、プラグマチズムは總てのことを説き盡したと云ふのではありませんが、一部の眞理は確に道破して居る。「しらす」と「うしはく」の意味が段々さう云ふ風に相成つて來ると云ふことは時代を経なければならぬ。何も知らない時に實行して行つて「しらす」と云ふのは

斯う云ふ意味である。「うしはく」と云ふのは斯う云ふ意味であると云ふのではない。「しらす」は實に三千年の歴史を経て立派にわかつて來た。歴代の天皇は立派に日本の歴史を通じて王道を示されて居る。

日本の天皇の政治の仕方は王道であると云ふことは、それは支那の王道とは大分違ふ。共通點は人道主義である、仁政、徳を施されると云ふ意味は日本も支那も共通して居ります。支那の王道は野心家の王道が餘程ある、人民の歸順を得てさうして時の天子に代つて起つと云ふやうな時に王道と云ふ意味は使つてある、餘程危険な方面もありますけれども、人道的には相違ない。其精神は同じでありますけれども、必しも日本の王道と支那の王道と混じてはならない。日本の王道は實に世界に類例のない光明赫灼たる王道で、此王道が「しらす」と云ふものを以て是だけの歴史を経て初めて「しらす」の意味が明になつて居る唯口で「しらす」「うしはく」といふのでない、行ふて而して後に出来る。王陽明は知は行の初め、行は知の名なりと言つて居る。「しらす」の意味は歴史を通じて實行されて分る。天皇でない人間に使つてゐるのはそれは「しらす」と云ふ言葉の濫用であります、濫用若くは僭用であります。初めは決してない。況んや公式令の天皇の勅語には極り文句として「しろしめす」と云ふことになつて居る、「しろしめす」と云ふことはちやんと宣命の中に掲げなければならぬことになつて居る。

さう云ふやうなことで「しろしめす」と云ふことを何時も天子様の大御言葉として何處迄も此言葉は生命を持つて來たので「うしはく」の方は廢れた。さう云ふ悪い方の意味は使用する必要はないから廢れて

仕舞つたけれども、「しろしめす」の方は固より古いのである。決して「うしはく」より後に出て来たものと考えられない、誠に生命を持つて使用された、外の言葉より長く是が活きて来た。意味も段々豊富になつて来たと思ふが大變な大事な言葉である。色々語學の方面の研究があつても決して抹殺すべからざるものは天地の初めより「しろしめす」此長い歴史を貫いて今日になつて來つて居る、今日は明治以來……：……現今に至つて詔勅に必しも「しろしめす」と云ふことを書くことになつて居りませぬけれども、今日は違つた言葉で言ふてありますが、「しろしめす」は天子の場合に限ると云ふことになつて居りまして外のものは使ふことは出来ぬ。其點が非常に大切な點である。それで歴代の天子が政治を爲されたのは立派に王道で人道主義の政治であります。どう見ても人民の要求する所と矛盾した政治を爲されないものであります。大國主命一派は決してさう云ふ人道を行つたと云ふことは少しも見られない、歴代の天皇は立派に治績が上つて來てさうして何時でも「しらす」と言つてある。此意味は三千年の歴史を通じての歴代の天皇の政治の仕方を説明します時にはどうしても王道と云ふことで説明しなければならぬ、説明の仕方に「うしはく」とは言へない。唯文字や言語に囚はれず温故知新で精神を探らなければならぬ、精神を探ると炳として日星の如く抹殺すべからざる大精神がある。私の最も感動しましたのは諸君も御承知でありませうが、報知新聞にありました彼ベグーン將軍の言葉である、ベルダンの陥落しなかつたのは一にベグーン將軍の勇敢なる防戦にあつたと思ふ。私は戦のことは知りませぬが、獨逸は五十萬の大軍を以て

急速に攻めると云ふことでありまして、あの軍勢で攻撃をすれば時日の問題で陥落すると云ふことを聞いて居りましたけれども終に陥落しなかつた、獨逸は損害を受けること多大で、あれは獨逸の敗因の重要なものであつたらうと思ひます。ベダーン將軍が日本人を評して居る。私は一旦捨てた新聞でありますけれども之を保存したいと思ひまして女中に探らせまして保存して置きました、學習院に於ても話をしそれは保存してありますが、それは斯う云ふのであります。ベルダンに於て勝利を得たのは全く精神主義に依つて勝利を得た、併ながら歐羅巴に於ては今意外な状態にある、物質主義が盛んである、物質主義が一變して社會主義を生じて來る、社會主義が段々近世歐羅巴に盛んになつて來たのは物質主義の結果である。物質主義は經濟の方から來て居りますからさう云ふのは無理はない。其社會主義が一變すればあの極端なボルシエヴィツク過激主義になる、過激主義は現に露國に發生して歐羅巴諸國に蔓延しつゝある、實に恐るべき状態になつて來て居る。

翻つて日本のことを考へますれば日本には古來種々なる歴史を通じて存して居ると云ふことで歴史を一貫して精神主義が行はれて來て居ると云ふことである。日本が近世段々勃興して來たのは古來の精神主義である。斯う云ふことをベダーン將軍は言つて居る。所がそれに對して日本の新聞などは色々冷評などを加へて居るのを見ます。中々精神主義所でない日本も實に其物質主義が起つて悲しむべき状態にあると論じて居りましたが、誠に現状を見ますとさう論ずるのも無理ではないが歴史を通じて精神主義であると云

ふことはベダイン將軍が言つて居ります。即ち王道の主義が一貫して居る。日本の百二十二代の天皇は王者に非ざるなし。一人の覇者覇道の精神を抱かれた人はない。覇道の精神を抱かるべきでない。此精神が「しらす」である。事實を以て「しらす」の意義を明にすべきで唯色々の疑を以て論ずるのは決して本當の言葉の意義でない。本當の言葉の意義は事實を以て説明しなければならぬ。事實が内容を成して居る。是は大變に大切なものであると思ふ。私は色々な説が出ましたけれども、之は本居宣長、井上毅両方とも神髓骨子の所は萎微して居らぬ。益々是は發揮して宇内に宣揚すべきことである。國體の根本であつて區々たる文字の研究はそれは考古者の仕事に任して置けば宜しい、大精神のことは決して忘るべからざることでありませう。

それだけにしまして小さな點を唯ちよつと申して置きますが、此白鳥博士の御述べになりましたのは中々面白い説でありましたが、少し御説明が不足して居つたものですから能く分らぬ點がありました。一つだけ申上げて置きます。彼の忍穂耳尊以後の神々には皆稻に關係があると云ふ御話がありました、稻飯命、忍穂耳尊などは御説明になりましたけれども鷓鴣草葺合不尊などは御説明があるだらうと思ひましたが説明がないのであります。神武天皇の御兄弟も一人々々の御説明がないと分らぬ、中にはどうであらうと云ふ疑がある。是は必ず御説明のあることゝ考へますけれども、御説明に鷓鴣草葺合不尊は一言も御述べにならなかつたものですから、さう云ふ方は外にもありません。少し聽いて居る時には不明瞭でありましたか

ら序に申して置きます。それから支那の知縣など、云ふこと、是は加藤玄智博士はあれは「しる」と云ふことから來たと云はれるが私は今も疑を有して居ります。あの知は韻が平聲の知事の「知」と云ふ時は仄韻になりましてすつと昔から使つてありますけれども、「しる」と云ふのは支那の知縣から來たか、それならば證明をしなければならぬ。あれは支那の官廳に使つた、唐代からだらうと思ひます。先秦時代には無論ないのであります。日本の「しろしめす」は何時からか分らぬのであります。日本紀は奈良朝に出來て居りますけれども、恐らくは山本信哉君が先刻來御述べになりました天武天皇の時から出たものであらうと思ひます。今傳つて居る所の日本紀は奈良朝に至つて出來上つたけれども其元は天武天皇の時に發したもので古事記よりも古いと思ふ。固より古事記の内容傳説は決してさう云ふことはありませぬけれども……さうして又日本紀に記載せられましたものは昔から傳つて來たものであつてそれを記載せられたものでありますから……さうして風土記、古事記など云ふものは日本紀の編纂資料と思ふ。古事記は資料に過ぎないものである。風土記は多分唯資料と云ふばかりではなからう。各地方の産物地理等を知る必要も無論あつたでありませうが、和同年間に即ち日本紀を編纂せられる少し前にあつたものを朝廷から命せられると云ふのは朝廷に於て初めて編纂せられるに就て各地方の傳説を知るの必要があつたからして是は命せられたことであつたと思ふのであります。

どうも歴史はまゝ天武天皇から奈良朝邊りに出來たにしても其中に記載せられたことは餘程古くから傳

つて居ることに違いない。さうして「しらす」と云ふ言葉の外はない。「うしはく」の方の正統の方には使つてない。正系統の形は是は「うしはく」でない。支那で謂ふ随分前の官廳に使ふよりはすつと古い、それ以前から日本には單獨にやつて居る。決して支那から來たのではない。是は白鳥さんもさう言はれたのでありますが、同じやうなことがある。同じことでもありますがい、どうも之に就ては疑を存して居る。「しる」と云ふから斯う云ふ具合に使ふやうになつて來たか知れませぬけれども兎に角韻は違ふ仄韻になつて仕舞ひます。官廳の時は説明を要すると思ふ。それから河野さんの頻に擧げられた「しらす」と云ふ言葉に「牧」す「御」す「奄有」等の漢字も當ててありましたことは私も知つて居ります。私も難かしい熟字を讀む時にしるしを付けて置きました。河野さん少し御考へになれば御分りと思ひます。日本の言葉を支那風に譯する時に當時の人はよき漢文になれば宜いと思ふて皆支那風にし。「牧」す等何でも支那風に書いてあるやうであります。是は怪しむに足らぬ。六國史に如何なる漢字があつても漢字に拘泥したら日本の眞精神を解し得ると思ふと是は間違で、それは六國史の編纂の時は今のやうなすつと一貫した王道の精神はない。ちやんと全體を捕へて見るなどと云ふ考は發達してない。今日から見れば大分に明瞭になつて來ましたけれども、其時はそれ程考はない。「御」すだの「奄有」だの色々の言葉を「しらす」に使つたのはいけない。宜くないけれども其時は知らないものであります。現に「しらす」と「うしはく」と區別するなど云ふことは即ち本居宣長が古事記傳に井上毅は隨筆に書いて居つた。更にそれに就て吾々が論議仕

始めたのでありますが、其頃の人が對照して論ずると云ふ所に至つて居らぬ。勿論主觀的にやつて居ることどあつてちやんと全體に之を綜括して論斷すると云ふ所まで行つて居らぬのでありますから、其はもう怪しむに足らぬ。「御」すだの「牧」すだの「奄有」だのを「しろしめす」と云ふ所に使つてあるから支那の文字通りであつたと云ふことは決して言へない、「治」と云ふ字も此前も論じて置きましたが、今日も治むと云ふ字が出ましたから述べますが「しらす」と云ふ時に漢字で治むと書いてありますが、治むと云ふことは日本の「しらす」と云ふことでは決してない。支那には日本の「しらす」と云ふ字に當る字がない。支那には日本の「しらす」と云ふ字に翻譯する字がない。それは日本の「しらす」と云ふのは井上毅氏は外國にもないと言つたのは事實から言つた。事實から言へば、日本のやうな三千年來歴代の天皇は實に宇内に赫灼たる王道を實行せられて居る、其事實が他にない。事實から見た時にありませぬ。亞米利加に無し、英吉利に無し、佛蘭西に無し、獨逸に無し、露西亞に無し、希臘に無し、世界各國に無いのでありますから、日本は其意味から言へば實に偉大なるものである、日本國家の將來に向つて益々之を實現して進むべきものである、非常に重大なことが關聯して居る、さう云ふ立場からして問題を見て行かなければならぬ。是は色々な語學の研究など、云ふことも参考にはなりません、それだけでは行かない、精神的方面を觀察して行かなければならぬ。

それから今の王道など、云ふことも今の天皇の側は王道であつて大國主命の側が「うしはく」と云ふこ

どが使つてある。「うしはく」と云ふ言葉は色々使つてあつてもあの方に王道が行はれた形跡は見えない。それで無論あの方は光明赫灼たる王道の側でなく大なる仁政を施しさうして其治績を上げたと云ふ程に見えないのに天皇の側はずつと見えて居る。さうして今日に至つて最も大切なるさうして日本の天皇はさう云ふ王道を實行せられた、即ち「しらす」の事實を成し遂げられた結果、茲に其人民の側に皇室に對する不満不平と云ふものが起らない、若し起したならばそれは間違ひである、是全く人道の王道の然らしむる所であります。君民合體、君民共通の政治が行はれずば世界の強國と雖も土崩瓦解して行く、基礎鞏固磐石の如く國運の勃興して行くのがどうしても「しらす」の事實から來て居ると思ふ、非常な重大なことであると思ふ。三千年の歴史を貫いて來た大精神の側から觀なければ日本の國體の歴史の本當の意味は、分らぬと思ふ。是はさうしても如何なる言葉の研究も抹殺することの出來ぬ宇内の大事實であると思ひます。それだけのことを今晚は申し上げます。

